

プラント状況確認結果(平成 29 年 7 月 4 日～平成 29 年 7 月 11 日)

平成 29 年 7 月 11 日
福島県原子力安全対策課

平成 29 年 7 月 4 日～平成 29 年 7 月 11 日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所 1～4 号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

[参考事項]

1号機タービン建屋は平成 29 年 3 月に主要エリアの滞留水除去を行い、一部の孤立エリアを残して床面を露出させ、現場の線量低減対策を行っていましたが、平成 29 年 7 月 5 日、1号機タービン建屋地下 1 階にある滞留水が残存している可能性のある未調査エリア 3 箇所の残水調査として、電気マンホール内の水位測定(2 地点)を行ったところ、電気マンホール内(No. 1、No. 2)の水位が、1号機タービン建屋近傍にあるサブドレンの水位(No. 201、202)より高い位置にあることから、特定原子力施設の保安第 1 編第 26 条「建屋に貯留する滞留水」にて定める 1号機タービン建屋の滞留水水位の運転上の制限「各建屋近傍のサブドレン水の水位を超えないこと」を満足できていないと判断したと報告を受けました。詳細については[こちら](#)をご覧ください。

(1) プラント状況(7月11日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	2.9	2.7	2.9	—
		圧力容器 下部温度(°C)	<u>23.9</u>	<u>29.7</u>	<u>27.4</u>	—
	未臨界確認	キセノン 135 濃度 ^{※3} (Bq/cm ³) (A系)	6.80 × 10 ⁻⁴	検出限界値 未満	検出限界値 未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%) (A系)	0.00	0.03	0.01	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	31.6	30.9	31.0	25.3 ^{※4}

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ない。

※3 実施計画に定める制限値は、1 Bq/cm³以下である。

※4 作業により 4号機使用済燃料プール冷却系一次系ポンプ停止中のため、4号機使用済燃料プール水温度に関しては至近のデータ(7月4日)を記載。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(7月11日午前10時)

最小 0.534 (MP-6) ～ 最大 1.906 (MP-4) μSv/h [⇒計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム 137 濃度の測定結果(7月10日採取分)

最小 0.61 (港湾口) ～ 最大 7.4 (1～4号機取水口内北側) Bq/L

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム 137 濃度の測定結果(7月10日採取分)

5、6号機放水口から北側に 30m : 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.73 Bq/L

1～4号機放水口から南側に 280m : 検出限界値未満 ※検出限界値は約 0.58 Bq/L

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(7月10日採取分)

西門：検出限界値未満 ※検出限界値は約 1×10^{-7} Bq/cm³

(6) 1~6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(7月7日採取分)

最小 検出限界値未満(5、6号機) ※各検出限界値は約4.4、3.3 Bq/L
～ 最大140(2号機) Bq/L

(問い合わせ 024-521-7255)